



2016年2月19日

原油価格低下に苦しむエクアドル

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

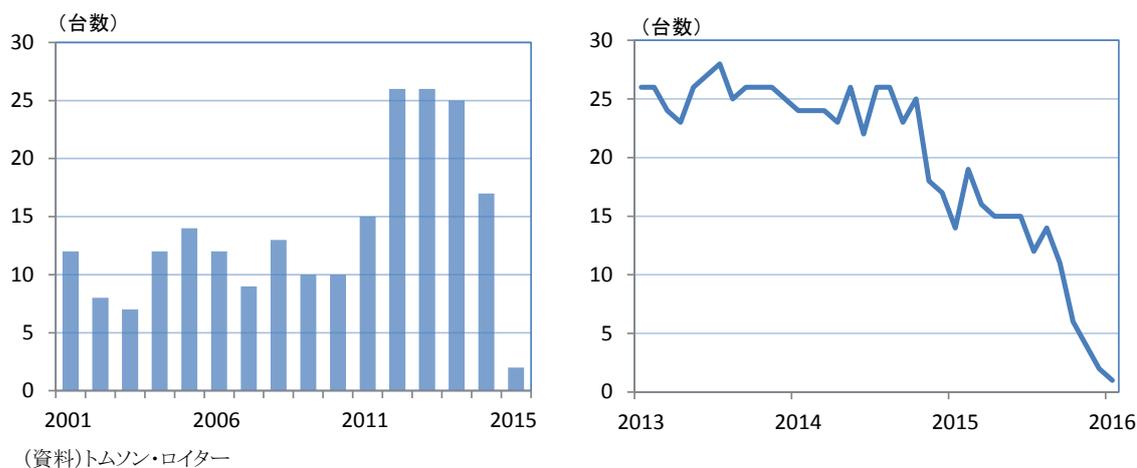
エクアドルは石油が輸出の5割を占め、政府の歳入も3割を石油に頼っている。原油価格低下は大きな痛手となっているが、ついに危機的状況になってきた。

同国のコレア大統領はまだ北海ブレント価格が50ドル/バレル前後であった昨年8月のインタビューで、エクアドルの原油は30ドル/バレルの収入をもたらしているが生産コストは39ドル/バレルと高く採算割れであることを認めていた。

その後北海ブレントは下落し、現在では30ドル前後となっている。品質の差によりエクアドル産原油は20ドル前後で取引されている可能性が高い。実際、通関統計の原油輸出金額と数量から逆算すると12月の単価は26.84ドル/バレルになっている。9月は40.11ドルであった。程度の差はあれ赤字であることは間違いないだろう。

もっとも油田は規模や立地によってコストは千差万別である。当然ながら採算の悪い油田から閉鎖していくことになる。図1はエクアドルの稼働リグ数を示している。驚くべきことに、現在同国で稼働しているリグはたったの1基である。

図1. エクアドルの稼働リグ数

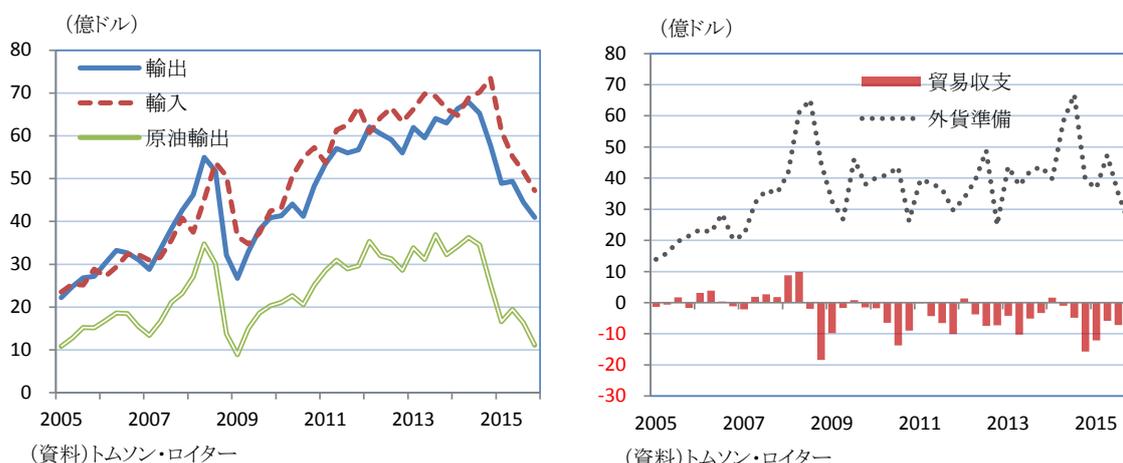


エクアドルの石油輸出は2014年130億ドルであったが、2015年は64億ドルに減少した。10-12月期は11億ドルで年率に換算すると44億ドルでしかない。同国の石油産業は大打撃を受けている。

その結果、輸出全体も14年の257億ドルから184億ドル（15年）に減少した。今後について考えると同国の非石油輸出は約120億ドルで、これに44億ドルを加えた160億ドル強が自然体の輸出能力である。それに対し2015年の輸入は215億ドルで、計算上の貿易赤字は55億ドルになる。ところが、15年末の外貨準備高は25億ドルでしかない。そして、政府の対外借入は15年末201億ドルで、年間の利払い額は41億ドルである。もはや同国の資金繰りは綱渡りの段階すら超えているようだ。

限界的な資源国はエクアドルだけではない。既に同じ南米の資源国スリナムがIMFに金融支援要請を行ったばかりだが、資源国の経済には引き続き注意が必要である。

図 2. エクアドルの対外取引、外貨準備高



当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。